

拳身の光

教法に忠実に生きるとは、一番むずかしい様である。

たしかに大法に忠実に生きるとは、最も困難なことである。

しかし、大法に忠実になることはむずかしくても、大法に忠実に生きる者の生活は安い。

大法に忠実ならしめないものは、我慢であり、自力煩惱である。

故に大法に忠実でない者は、我慢邪見の声によつて生きているのである。自力我慢にとつて都合よく、易い生活をとれば、やがて生活は必ず行きづまって困難な淋しいものになる。

大法は必ず涙にぬれている。しかし大法は何ものよりも苦く厳肅に我が胸を打つ。大法が涙にぬれていることを知らぬ者は救われぬ。大法はいかに厳しくても、決して冷たい審判者ではなく、地獄の使いではない。であるから、いかに苦く厳しくとも、大法の鞭の下にひれ伏せば、必ずその熱き涙にふれて救いを知るであろう。

しかし、人間の世界が、貪欲中心にして、顛倒なる妄念によつてなされているが故に、大法がいかに大慈悲のものであろうとも、必ず我にとつては氣に入らぬ、苦い、勝手の悪いものである。もし大慈悲に、この我の根強き城を根底から覆えす威力がないものであるならば、大法は人間の上に自覚をもたらしはしない。故に如来は智慧光にてまします。

私が念仏行に救われるより前に、唯一絶対なる大行によつて救われきつたるお方が私の前に立つて下さる。教主善知識がそれである。教主善知識は、永劫不滅の大行に生かされ、その中心より歓喜して、金剛不壊の大信心によつて、独立不動の人格を成就せるものである。

まことに釈迦、親鸞は、如来応現の教主善知識として、不滅絶対なる大行に乗托して、我が前に立ちたもう如来の化身である。

この人格の上に大信心成就せる具体的なる名号であるが故に、大法であるが故に、大法は絶対の権威をもつて我に迫るのである。随つて教主なき浄土教はあり得ない。教主善知識なき「如来と直の約束」と言つたような信心は、必ず我慢になつて固められた自力の信である。

釈尊におくれること二千五百年、親鸞聖人を遠ざかること七百年にして、大地に生れ出でたるが故に、この尊高なる大法に遇い得たのである。よい時に生れ出でたものである。よいところに生をうけたものである。ただ合掌念仏、經典聖教に向かえば、聖教は一念仏の内容となつて、尊くも教主聖人と一如一体を感じしめられる。その時、教主を超えて、久遠の本仏の救いを自覚することが出来る。

真に教えを聞くと、教えの中から都合のよい文句を引き抜いて弄ぶことではない。

教えが人格と人格とを通してものを言う時においては必ず全我を要求する。全身を耳にして聞くべきを求める。単に高慢なる頭だけでも、胸だけでも、手だけでも駄目である。必ず全人格を要求する。教主は全人格を以つて教えを説きたもう。

觀無量壽經において、觀音觀には「拳身の光の中に、五道の衆生の一切の色相、皆中に於いて現ず。」と言い、勢至觀には「拳身の光明、十方国を照らし、紫金色を作す。有縁の衆生皆悉く見ることを得。但だ此の菩薩の一毛孔の光を見れば、即ち十方無量の諸仏の淨妙光明を見る。」と言う。

觀音の光は、六道輪廻の衆生を照し出して抱く光であり、勢至は無明を破つて無量の諸仏の淨土を照し出す光である。

「拳身の光明」の文字は近頃見出した尊重なる文字である。拳身とは全我である。全人格である。親鸞聖人は、法然上人の上に勢至の光を拝まれ、我等は親鸞聖人の上に觀世音の光を拝す。両聖ともに如来大行に生かされた方である。拳身六字の大行に輝きたもうた方である。

「信心治定の人は、誰によらず先づ見ればすなはちたふとくなり候。是れ其の人のたふとくに非ず。佛智を得らるゝが故なれば、弥陀佛智の有り難き程を存すべきことなり。」(御一代聞書)

光とは、仏の智慧光のことである。仏の智慧光が衆生の上に顯われたもうが故に、念仏の人は尊くなるのである。心の尊さ、有難さはその顔の上に顯われるが故に、人相まで変わるのである。

それはただ大法に忠実に生きた人のみに開くのである。

「前々住上人仰せられ候。信決定の人を見て、あの如くならでは、と思へば成るぞ、と仰せられ候。あの如くなりてこそと、思ひすつること浅ましき事なり。佛法には身を捨て、望み求むる心より、信をば得ることなりと云々。」

2

真宗の今頃の同行は、少し御聖教の通りを言えば、「それほどにせなくても、極樂へは参れる。どうも出来ないのが凡夫だ。」と坐りこんでいる。

「あの如くならでは」と尊く生きた人を見て「思へば成るぞ」とは上人のみ教えである。あの如くなられるものかと、思い棄てることはあさましい事である。仏法には、身を捨て、望み求むる心より、信をば得ることである、とは上人の懇なるみ教えである。大法に忠実に生きることを拒み、得たり顔になり、それより自分を世間に売ることばかり考える心、汝の唯一なる敵である。

信心成就の念仏は必ず全人格の絶対統一の相である。故に全身全霊、全我燃焼の事実である。

「多聞淨戒えらばれず 破戒罪業きらはれず

たゞよく念ずるひとのみぞ 瓦礫も金と変じける。」

信心の智慧は、拳身の光である。